

昨年はコロナ禍で生活様式が一変しました。6月に児童館を再開しましたが、いろいろな制限があり、たくさん
の行事が延期や中止になりました。今までどおりのことができない中で、各館工夫を凝らして子どもたちに憩
いと遊びの場を提供されたことと思います。

各館で工夫したことや、行事を通じて感じた想いやあらたな気づきを紹介させていただきます。



『コロナ禍のクラブ活動』

森山児童館



結果

コロナによる影響

工夫

★ 一輪車クラブ

① 集団演技が制限

→ 異年齢ペアを作り、
接触を限定

→ 仲良くなり思いやりが育った

② 大会が中止になったり、
児童館フェスティバルや
地域の発表がなくなった

→ 他競技の大会も中止。普段
空きがない総合体育館などで
密を避けて広々と練習

→ 床のコンディションが良く、
メキメキと上達

★ 茶道クラブ

① 作法だけの期間があったり、
自服を基本としたので、
茶道らしさにかける

→ 例年実施の発表茶会は、
タイムスケジュールを組み
家族ごとに行う

→ 保護者の前で凛として点前に挑み
静寂の中にもアットホームな
雰囲気の中で保護者の方たちは
目を細めていた

② 例年地域のデイサービスセン
ターへ呈茶を行っていたが、
昨年は中止

→ お稽古風景を撮影し、
ビデオレターという形にした

→ 利用者の方たちに喜んでいただき
お礼状をいただいた。コロナ禍の
中で心の交流ができた

★ トランポリンクラブ

① マスク着用で練習となり、
長時間跳ぶことは難しい

→ 短時間で集中して練習

→ 真剣に取り組み、技に磨きをかけ、
バッチテスト受検者も多く、
級が上がった

『コロナ禍で工夫した事』

小坂児童館

* 『畑での苗植え・収穫』 5月～11月

活動の趣旨 体を使ってコロナ禍のイライラを解消する事。皆で同じ作業をし達成感を得る事。

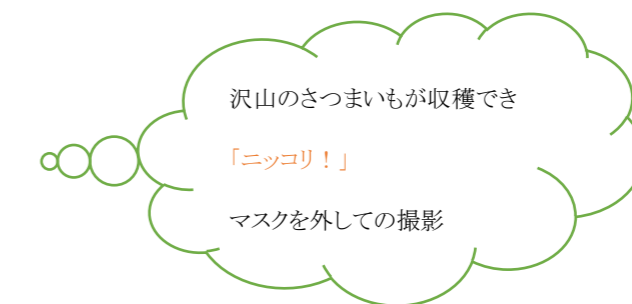
児童館の隣に畑がある。ゴーヤ苗植え・収穫、さつまいも苗植え・収穫、じゃがいも苗植え・収穫

トマト収穫、オクラ収穫、など、コロナ禍において体を動かすことが少なかった分、草取り、水やりなどに汗を流した。ニコニコ笑顔で疲れも吹っ飛ぶ。

* 『ロータスの輪』 11月7日

活動の趣旨・目的 小坂地区特産のれんこんをツールとして、親子の触れ合いを深める事。自然の中でのびのび活動する楽しさを感じてもらおう事。家族以外の人たちと触れ合う楽しさや、他の人との触れ合いの中から色々な事を学ぶ。皆でひとつのイベントをやり遂げる事の楽しさ、難しさ、大切さを学ぶ。

御所町のれんこん田にて地域の方の協力を得てれんこん掘りをした。児童館では民生委員、元母親クラブの方、職員でれんこん料理を作りお土産にした。(例年だとれんこん栽培について、なぜ小坂地区にれんこん栽培が盛んであるのか話を聞き、地域の方と触れ合っていた。



沢山のさつまいもが収穫でき

「ニコリ！」

マスクを外しての撮影

『コロナ禍の開館40周年』

城北児童会館

新型コロナウイルス拡大で、入館時の検温や消毒を徹底したり、わんぱくランドやおばけ大会などのほとんどの行事を中止にしたりするなど、今まで経験したことがない大変な1年でした。そんな中でもたくさんの親子が、ステイホームでつかれた親子の憩いの場所として、城北児童会館に足を運んで来ています。

城北児童会館も今年5月5日で開館40周年を迎えました。そして、夏頃には来館者400万人を達成する予定です。この40年で児童会館の周辺には大きな建物が建ち、館内の様子や遊具も変わりました。コロナ禍で行事の人数制限をするなど、行事のやり方も変わりました。そんな中でも40年変わらないのは、児童会館にやってくる子どもたちの笑顔で遊ぶ姿です。これは、どんな状況であってもいつの時代であってもずっと変わらないはず。40周年記念として、入口看板の除幕式を執り行いました。城北児童会館にお越しの際、ご覧ください。



『夕涼み会』 浅野町児童館

いつもなら親子キャンプ、映画会、お泊り会で楽しいはずの夏休み…が、今年は違う。

新型コロナウイルスとの闘い、共存。子どもにとってかけがえのない夏休みの思い出に何が出来るだろうか？

十分な対策のうえで、今までのやり方に執着せず、固定概念を取っ払い、出来る範囲でアイデアを出し合った。そんな中、「浴衣を着たい」という女子の声があった。夏らしい！可愛い！いいね！と思った。浴衣を着て地域を歩いてみよう。「夏の夕涼み会」歩くだけではもったいない！春の休校も影響し、家族同志の交流、地域の交流を図ろう！と考えた。児童館周辺の方にも協力頂き、ウォークラリーを企画した。当日の参加は、10組の家族。髪をアップし、髪飾りをつけ、おめかし。じんべえ姿のお父さんもいて夕涼みを楽しんでいる様子が

伝わった。家族単位で時間差をつけてスタート。地図を片手に、クイズに

答えたり、ポイント地点で判子を押してもらったりしながら歩いた。夕方、心地よい風もあり気持ちよかった。児童館に帰ってきてから、クイズの答え合わせをした。遊戯室では盆踊りをして、日が落ちる頃に花火を楽しんだ。

参加者からは、三密を避けられた、クイズを出すのが面白かった地図で迷った、初めて花火をして嬉しかった 等の声があった。

やって良かったと思った。そして改めて児童館の役割を再確認する機会となった。

これからも地域の拠点として途切れることのないよう日々の活動を繋げていきたい。



『楽しくソーシャルディスタンス』 花園児童館

目印を付けることで自分だけの場所を

行事の中で、ソーシャルディスタンスを保ったまま楽しむことのできる方法として、花園児童館では一人一人の場所を決めておくことを取り入れました。ジョイントマットに名前を書いたテープを付けて、自分の場所を誰が見てもわかるようにすることで、友達との距離を保つ工夫をしました。

ゲームなどの活動内容に合わせて自分のマットを持って移動し、使わない時にはその都度壁に立てかけ、空間を使い分けることから、コロナ禍の行事では定着しつつあります。

「〇×ゲーム」

これまで行事の中で行っていた「〇×ゲーム」は空間を線で分けて〇×エリア内を行き来していました。

子ども達同士のソーシャルディスタンスを保ちつつゲームを楽しむために、〇×うちわを手作りし、「たなばた〇×クイズ」を楽しみました。

うちわを使うことで自分の考えた答えに自信をもって答えようとしたり、友達の動きにより注意して観察しようとしたりする姿が見られました。同じ形式で他の行事にも応用でき、今年度も効果的に取り入れたいと思っています。



『かんがる一教室』 馬場児童館

新型コロナ感染症の大流行により、私たちの生活において様々なもの、そして、機会が奪われ、育児においても多くの問題が生じている。

一日の大半を保護者が家で養育している未就園児について、かんがる一教室を通しそのご苦労を間近に見ることができた。

昨年度、開講を予定していた5月は緊急事態宣言下であり、児童館は休館の措置を取っていた。

解除に向けた準備で最も気を使ったのが「かんがる一教室」だった。解除に合わせてそれを行っていいのか、申し込みを受けていた方たちは、予定通り参加されるのか。

不安で迎えた開講式の日、申し込みのあった8組全員が参加され、職員は一層気が引き締まる思いがした。感染対策をとりながら手探りで行っていく中、いつもに増してお休みされる方が少ないと感じた。休館明け、来館する小学生の数もこれまで以上に多くなっており、自粛で、子ども達、そして未就園時の親子は、安全に遊べる場所を求めていることを改めて感じた。これまで利用していた大きな施設は利用制限が続き、なかなか遊べないと伺った。閉講式の日には、「こうした場所があってとても助かりました」とのお言葉をいただき、感じるものが多くあった。地元で同じような年齢の子どもたち、保護者同士が触れ合える「かんがる一教室」の意義をこれまで

で最も感じる事ができた1年だった。子どものために施設を探し、遊びの時間を作ってあげられる保護者ばかりではない。閉塞感でこれまで以上に育児について悩んでいる親子に少しでも機会を作ることが出来る場所でありたいと思う。



『コロナ禍のクリスマス会』 千坂児童館

千坂児童館のクリスマス会といえば、北陵高校の吹奏楽部によるクリスマスソング演奏会が定番でした。ところが昨年はコロナで演奏会ができなくなり、その代わりとして屋外でのクリスマスイルミネーション点灯式をおこないました。

子どもたちへのサプライズとして、準備は子どもたちのいない時間帯に職員と母親クラブの役員でこっそり行いました。

当日の集合時間は夕方に変更し、館内でマジックショーを見た後、すっかり日が暮れた外に出ました。

児童館長のカウントダウンに子どもたちが声を合わせ点灯！

暗闇の中、児童館の外壁や窓に浮かび上がるミッキーマウスや色とりどりの電飾に

子どもたちだけでなく保護者からも感嘆の声が上がりました。親子で記念撮影をしたりして、いつもとは違った形だけど、とても盛り上がったクリスマス会になりました。ちなみに毎年恒例のケーキ作りはやめて、クッキーをお土産に持って帰りました。



新しい活動スタイルも取り入れながら、子どもたちの未来のために、日々寄り添い活動を継続していきたいと思っています。



金沢市児童館児童厚生員会

〒921-8141

金沢市馬替 1-29-1

扇台児童館内 TEL296-1180

担当：2ブロック